

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター

宮崎県健康増進課

宮崎県衛生環境研究所

■ 宮崎県第 25 週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は 1,070 人（定点あたり 32.1）で、前週比 102%とほぼ横ばいであった。

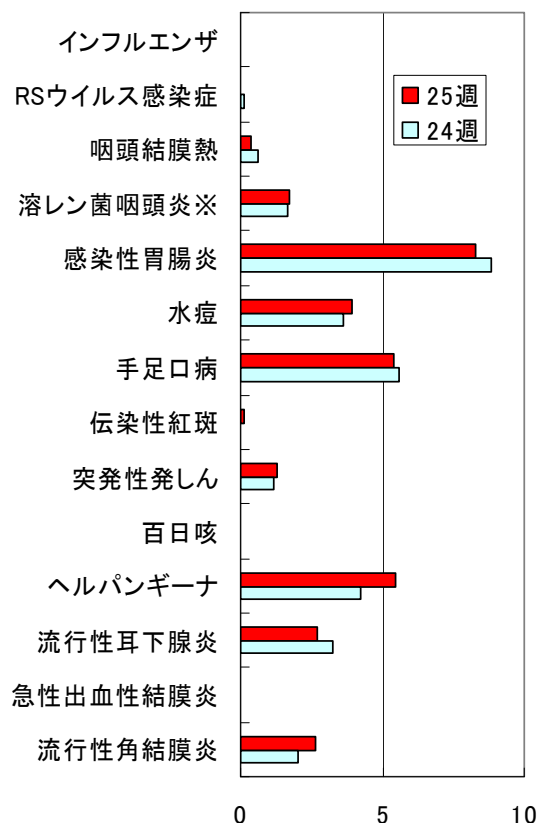
前週に比べ増加した主な疾患はヘルパンギーナで、減少した主な疾患は感染性胃腸炎であった。

ヘルパンギーナの報告数は 197 人（5.5）で前週比 129%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（3.8）の約 1.4 倍と多い。日南（13.7）、延岡（7.8）、高鍋（7.0）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 6 ヶ月から 3 歳で全体の約 8 割を占めた。

手足口病の報告数は 194 人（5.4）で前週比 97%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点あたり平均値（3.5）の約 1.5 倍と多い。日南（24.0）、都城（7.8）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 7 割を占めた。

無菌性髄膜炎 1 人が日南保健所から報告された。患者は 3 歳の男児。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
水痘	7	3.9	延岡(10.3)	1歳～4歳で全体の約7割を占めた。
手足口病	5	5.4	日南(24.0)、都城(7.8)	1歳～3歳で全体の約7割を占めた。
ヘルパンギーナ	6	5.5	日南(13.7)、延岡(7.8)、 高鍋(7.0)	6ヶ月～3歳で全体の約8割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.7	日向(13.5)	3歳～6歳で全体の約6割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 6 例が宮崎市 (3 例)、日南・小林・高鍋 (各 1 例) 保健所から報告された。
《宮崎市保健所》・40 歳代の女性でその他の結核 (胸膜炎)。胸痛、呼吸困難がみられた。
 - ・20 歳代の男性で無症状病原体保有者。
 - ・80 歳代の女性で疑似症患者。咳、痰、発熱がみられた。《日南保健所》・20 歳代の女性で肺結核。体重減少がみられた。
《小林保健所》・80 歳代の女性で肺結核。痰、発熱がみられた。
《高鍋保健所》・40 歳代の女性で結核性胸膜炎。咳、発熱、胸痛がみられた。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 2 例が宮崎市・都城 (各 1 例) 保健所から報告された。
《宮崎市保健所》・20 歳代の男性で無症状病原体保有者。原因菌の O 血清型は不明 (VT1 産生)。
《都城保健所》・10 ヶ月の男児で水様性下痢、嘔吐、発熱がみられた。原因菌の血清型は 0157 (VT1, VT2 産生)。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : ウイルス性肝炎 (B 型) 1 例が宮崎市保健所から報告された。40 歳代の男性で全身倦怠感、褐色尿、肝機能異常、黄疸がみられた。

■ 全国第 24 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 17.6 で、前週比 95% とほぼ横ばいであった。今週増加した主な疾患はヘルパンギーナと手足口病で、減少した主な疾患は水痘と感染性胃腸炎であった。

ヘルパンギーナの報告数は 4,737 人 (1.6) で、前週比 133% と増加した。例年同時期の約 1.1 倍である。徳島県 (4.5)、宮崎県・秋田県 (4.3) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 8 割を占めた。

手足口病の報告数は 5,411 人 (1.8) で、前週比 113% と増加した。例年同時期の約 2.1 倍である。山口県 (8.6)、大分県 (6.4)、高知県 (6.1) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳までが全体の約 7 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 328 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 3 例、腸管出血性大腸菌感染症 128 例、腸チフス 1 例、パラチフス 1 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 2 例、A 型肝炎 6 例、つつが虫病 3 例、デング熱 4 例、日本紅斑熱 4 例、ブルセラ症 1 例、ライム病 1 例、レジオネラ症 7 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 7 例、ウイルス性肝炎 3 例、急性脳炎 3 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 16 例、ジアルジア症 3 例、梅毒 10 例、破傷風 3 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風疹 2 例、麻しん 3 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第25週(06月21日～06月27日)

疾病名		第24週	第25週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	5										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	22	13	2	4	1	4				1	1
	定点あたり	0.61	0.36	0.20	0.67	0.25	1.33	0.00	0.00	0.00	0.25	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	60	61	15	5	19	7	5	3		4	3
	定点あたり	1.67	1.69	1.50	0.83	4.75	2.33	1.67	0.75	0.00	1.00	3.00
感染性胃腸炎	報告数	317	299	70	58	20	32	53	19	9	33	5
	定点あたり	8.81	8.31	7.00	9.67	5.00	10.67	17.67	4.75	9.00	8.25	5.00
水痘	報告数	131	142	34	31	41	2	12	10	1	11	
	定点あたり	3.64	3.94	3.40	5.17	10.25	0.67	4.00	2.50	1.00	2.75	0.00
手足口病	報告数	200	194	34	47	11	72	5	8		17	
	定点あたり	5.56	5.39	3.40	7.83	2.75	24.00	1.67	2.00	0.00	4.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	3	4	1	3							
	定点あたり	0.08	0.11	0.10	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	42	46	16	7	9	5	1	4		4	
	定点あたり	1.17	1.28	1.60	1.17	2.25	1.67	0.33	1.00	0.00	1.00	0.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	153	197	46	26	31	41	8	28	1	14	2
	定点あたり	4.25	5.47	4.60	4.33	7.75	13.67	2.67	7.00	1.00	3.50	2.00
流行性耳下腺炎	報告数	117	97	13	3	23		2	2		54	
	定点あたり	3.25	2.69	1.30	0.50	5.75	0.00	0.67	0.50	0.00	13.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	12	16	12	2	2						
	定点あたり	2.00	2.67	4.00	1.00	2.00						
細菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1	1				1					
	定点あたり	0.14	0.14	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第25週)

2類感染症	結核	95例(6)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	19例(2)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
	マラリア	1例	レジオネラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	7例(1)	急性脳炎	6例
	後天性免疫不全症候群	2例	梅毒	4例	破傷風	3例
	麻しん	1例				

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

腸管出血性大腸菌感染症（0157 など）に注意しましょう。（6 月 21 日～6 月 27 日）

腸管出血性大腸菌感染症は昨年に比べ報告数が多く、4 週続けて報告されています。全国的にも報告数も多く、過去 5 年の同時期と比べ最も多くなっています。

人や家畜の腸の中には多くの種類の大腸菌がありますが、このうちペロ毒素を作る菌が原因でおこる病気が腸管出血性大腸菌感染症です。感染すると症状が出ない場合もありますが、激しい下痢や血便、腹痛、嘔吐、発熱などをひきおこしたり、小さなこどもや高齢者では重症化することもあります。この菌は感染力が強く、少ない菌でも感染しますが、加熱や消毒薬により死滅するので十分に予防することができます。

感染経路は、食品などを介する「食中毒」と、人から人へと感染する「感染症」に分かれます。感染予防の基本は手洗いです。トイレの後、調理・食事前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。調理の時にはこまめに手を洗い、生肉を扱った手は他の食材や器具に触る前に石けんで十分に手を洗います。また、生野菜はよく洗い、肉の生食は避け十分に加熱し、肉を焼くときの取り箸は専用にししましょう。加熱の目安は食材の中心を 75℃で 1 分以上です。